

令和8年3月

関係者各位

世田谷区立用賀小学校
校長 安藤 由季子

前年度の改善方策について実行した改善結果

1 令和7年度の用賀小学校の経営

<課題を解決する力の育成>

・自らの課題を見付け、解決のための見通しをもち、必要な情報を収集したり整理分析したりして自分の考えをまとめ、表現していく「探究的な学び」を充実させる。

→令和7年度世田谷区教育委員会研究指定校（授業改善に関する研究）に指定
日常の学習活動を通して、探究的な学びを充実させていく。

<自己肯定感・協働する力の育成>

・「学び合う活動」「学びを振り返る活動」を充実させ、学びをもとに自分のめざす姿を思い描き（未来デザイン）、思い・願いをもとに自分らしく行動する児童を育成する。また、個性を生かし、多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。

→活動の取組に対する「振り返り」を大事にし、自己の成長を実感させ、自分に自信をもたせる。

→他者と協働することで、共に学び、自己成長につながることを体感させていく。

<健康な心や体を自ら作ろうとする力の育成>

・自分の心や体の調子を知り、健康な毎日を送ることにつながる自己の取組目標を決めて、前向きに取り組む。

→自分自身が健康な心と体でないと、さまざまな活動に前向きに取り組んでいくパワーを生み出して活動していくことができないので、健康な体づくりに取り組んでいく働きかけをしていく。

2 数値目標の達成結果

1 「キャリア・未来デザイン教育」の実現<自己肯定感・協働する力>

・【学校の自己評価から】の◎が付いている設問から見て取れるように、教員全体が統一して意識的に行っていることが、【児童アンケート調査から】の結果へと形になり、比較的肯定的な回答に繋がったと考えられる。

・【保護者アンケートの調査から】で「本校の学び合いや学びを振り返る活動は、自分のよさを見付け、自分に自信をもつことに効果があると思う。」が肯定的な回答が昨年度の70.4%から今年度は77.3%と上がり、「分からない」と回答している割合が昨年度の22.9%から今年度は11.5%と下げることができた。これは、昨年度の結果を受けての改善策として、本校独自の振り返りタイム「自問タイム」について、取組や意図について保護者に伝わるよう、ホームページや学校公開、保護者会等で授業の様子を発信したり、学校だよりで校内研究の取組や児童の成長を載せる欄で定期的に発信したりした効果だと考えられる。今後も、引き続き、保護者への積極的な情報提供を続けていく。

・【児童アンケートの調査から】のキャリア教育についての設問「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある。」について、保護者（45.9%、【分からない】33.1%）、児童（64%、【分から

ない】12.5%）共に肯定的な回答が低かった。各教科においてキャリア教育と位置付けられた授業を行っているが、それが児童にとって結び付いていないことが課題である。保護者にも児童にも、学校の教育活動全体で自分の生き方や将来につながる内容を扱っていることが理解できるように改善していく必要がある。

2 教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進<課題を解決する力・協働する力>

- ・【児童アンケート調査から】の「先生は、タブレットを活用するなど、分かりやすい授業をしている」の項目において、肯定的回答をした児童が91.3%と高かった。また、「先生は、黒板の書き方やワークシート(ロイロノートをふくむ)などを工夫している」の項目でも89.4%と昨年度よりも少し向上した。教員の活用スキルが向上しただけでなく、これまで蓄積してきたタブレットを活用したワークシートをブラッシュアップしたことにより、児童一人ひとりに応じた指導に繋がったと考えられる。
- ・【保護者アンケート調査から】の「教員は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」に対する肯定的回答が72.5%で、前年度よりも大きく向上した。また、「分からない」と回答した保護者が25.4%から18.2%と減少した。このことから、日ごろの学習活動をホームページや学校公開などで発信し、保護者に学習の様子を伝えることができていると考えられる。一方で、児童とのアンケートとの差が広がっているため、引き続き周知をし、情報開示していく必要がある。
- ・【児童アンケート調査から】の「学び合う活動では、考えたことを発表したり友達を考えからよりよい考えにしたりしている」に対する肯定的回答が76.9%だった。「私は、めあてに向かってあきらめずにねばり強く取り組んでいる」は77.9%だった。学校の自己評価と重ねるとずれがあるため、改善の余地が見られる。

3 多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進<自己肯定感・協働する力>

- ・【児童アンケート調査から】の「友達の気持ちを大切にし、話を聞いている」の肯定的評価は90.8%と高い結果であった。学校生活の中で友達の気持ちや存在を大切にして話を聞くことで、相手を尊重することができていると考えられる。
- ・【児童アンケート調査から】の「先生たちに相談できる」、保護者の「教職員に相談できる」は、それぞれ78.3%、78.8%と80%近い評価であった。保護者の「本校の、学び合いや学びを振り返る活動を通して自分のよさを見付け自分に自信をもつ取組は、効果があると思う」についても77.3%であった。さらに児童の自己肯定感を高めていくために、教師が一人一人のよさを見取り、伝え、認めていく必要がある。

4 地域社会と協働した教育の推進

- ・【保護者アンケート調査から】を見て分かる通り、保護者の方々は学校の取組には興味をもち、学校からの情報もさまざまな方法を生かして、進んで受け取っている。一方、「私は、学校だよりなどを通して、今年度の学校重点目標を理解している」が65.1%と、学校の重点目標や取組に関しての理解度はまだまだ浅いという結果となった。
- ・【学校の自己評価から】の「学校は教育活動に保護者や地域の人材や施設を活用している」は100%と、学校は、地域の人々や施設を活動に生かす取り組みを行っている。
- ・【学校の自己評価から】の「学校は、保護者・地域の声や願いに応える教育活動を積極的に行って

いる」は、94%と、学校は保護者や地域の声や願いに応える教育活動を行い、保護者にも丁寧に対応し、地域参画型の学校経営がなされている。

5 健やかな体づくり<非認知能力・創造する力>

- ・【保護者アンケート調査から】の「本校が体育朝会や運動遊びの交流（異学年交流）、外遊びに取り組んでいることは健やかな体づくりに効果があると思う。」が100%になった。これは、昨年度の改善策として、「体育朝会をきっかけとして、より運動に興味をもって取り組めるような内容を検討する。体育朝会で体験した運動を休み時間等にも取り組めるよう用具の種類を充実させ、場の設定をし、運動に慣れ親しませる。」ことを具現化するため、今年度は「長なわ朝会」や「短なわ朝会」などに取り組んだ。これらの朝会が運動のきっかけとなり、休み時間に長なわや短なわに取り組む児童が多く見られた結果だと考えられる。
- ・【保護者アンケート調査から】の「本校が体育朝会やなかよしタイム（異学年交流）、外遊びに取り組んでいることは健やかな体づくりに効果があると思う。」の数値が88%だった。昨年度の改善策として、「異学年交流を通じて、高学年児童が中心となって体を動かす時間をとる。」とし、なかよしタイムでは、6年生が中心となり、遊びを通して運動に関わる機会を作った。その結果だと考えられる。
- ・体力テストの結果から、「上体起こし」の数値が全国平均的に高いことがわかった。学年別で見ると、5年生男子が22.06回で全国平均が19.95回となり、2.11回も多い記録となった。しかし「ボール投げ」の数値が全国平均から低いことがわかった。6年生女子が12.33mとなり、全国平均が15.76mと3.43m低い数値となった。
- ・意識調査では、「体育の授業は楽しいと思いますか。」は94.6%、「あなたにとって運動やスポーツは大切ですか。」は94.1%となっている。この結果から本校の児童は、運動に対して、前向きに取り組んでいることがわかる。

6 学校における働き方改革の推進

- ・「余白を生み出せているか」という問いに対して、昨年度は「思う」の割合が64%だったが、今年度は90%と大幅にポイントを上げることができた。昨年度改善策で挙げた校務分掌の見直しと各種会議が精査されたことによって、よい結果へと繋がったと考えられる。複数の分掌のメンバーを一本化することにより、各会議等が効率的になり、それによって会議の時間が短縮されたことがよい結果に表れたと考えられる。また教科担当制の導入により、それぞれの担当教科が絞られたことにより、教材研究や準備の時間が削減されたことも余白を生み出すことに繋がったと考えられる。
- ・「校務負担の削減」という問いに対しては、「思う」の割合が昨年度89%、今年度90%と高い水準を維持できている。
- ・「校務分掌が適切に分担されているか」という問いに対しては、「思う」の割合が令和5年度57%、昨年度71%、今年度が83%と、年々ポイントを上げることができている。教職員の仕事量の把握とヒアリングがよい結果へと繋がっている。